



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

ゲートキーパー養成研修会

9月10日は世界自殺予防デーでした。世界では毎日3,000人が自らの生命を断とうとしており、WHOでは毎年9月10日を世界自殺予防デー（World Suicide Prevention Day）として国際自殺予防学会 IASP と共同して自殺予防への啓発活動が行われます。

日本でも世界自殺予防デーに因んで、毎年、9月10日からの一週間を自殺予防週間として設定されています。自殺予防週間は、当該期間中における集中的な啓発事業等の実施を通じて、国民に自殺や精神疾患についての正しい知識を普及啓発し、これらに対する偏見をなくしていくとともに、命の大切さや自殺の危険を示すサイン、また危険に気づいたときの対応方法等について国民の理解の促進を図ることが目的とされています。

当院でも平成29年8月25日（金）当院講堂において熊本県人吉保健所との共催で自殺予防ゲートキーパー養成研修会を実施し、約30名の参加がありました。

熊本県人吉保健所より熊本県の自殺の現状について報告があり、その後、地域生活支援センター精神保健福祉士の檜垣俊輔先生より講義・演習がありました。今回は、ゲートキーパーの役割や傾聴の仕方

など基本的な内容を中心の講演でしたが、参加者の殆どが当研修を初めての受講ということもあり、皆さん真剣に耳を傾けていました。また、2人1組での傾聴の演習を通して、相手の話をきちんと聴くこと、相手に伝わるように話すことなど、改めて相手への話し方・傾聴のポイントを理解しました。

当院には精神科はありませんが、救急外来や病棟などで自殺企図の患者さんに対応することが多く、今回の研修が少しでも役に立つものと考えます。また、一人でも多くの方が、地域において悩んでいるひとに「気づき」、専門科等に「つなぐ」ことができるようになることが大切です。

今後も地域の関係機関と協働し、当研修や自殺予防対策の研修・会議等の引き続き参加、周知などを行っていききたいと思います。

医療福祉連携室 田頭 隼人



10月の月間予定

- ・乳がん月間（※当院ではピンクリボンツリーを設置予定）
- ・臓器移植普及推進月間
- ・骨髄バンク推進月間

ひまわり会開催!

8月25日当院の松永千恵歯科衛生士を講師に迎え「口腔トラブルと予防法」をテーマにひまわり会を開催致しました。

がん化学療法中には30-40%の人に口内炎が出現するとされている事や、骨粗しょう症や骨転移の治療に使用するビスホスホネート製剤の副作用によって顎の骨が壊死する顎骨壊死とその予防方法についてスライドを用いて詳しく説明がありました。

また、若年者でも気をつけなければならない歯周病についても説明があり、説明の後は、実際に参加者に持参して頂いた歯ブラシを使用して、磨き残しのチェックとブラッシングの指導も行われました。

薬剤で黒く染まった歯を鏡で確認しながら歯と歯の

隙間や、歯と歯茎の間、奥歯など磨きにくい部分を真剣な表情で皆さん磨いておられました。かかりつけの歯科で購入された、歯と歯の間を磨く特殊な歯ブラシをお持ちだったり、こだわりの歯ブラシがあったりと口腔ケアに関心の高い方が多いことが印象的でした。

がん治療には口腔ケアが必須であり、当院でも医科歯科連携を推進するなど取り組んでおりますが、常日頃からのセルフケアが必要であることを自分の口の中を見ながら再認識した今回の研修会でした。



医療福祉連携室 岡本 理恵

がん征圧月間 ～早期発見・早期治療 健康診断、二次健康診断を受けましょう!～

公益財団法人日本がん協会が昭和35年から毎年9月を「がん征圧月間」と定め、「がん検診の推進」「がん患者・家族への支援」「がんの正しい知識の普及と啓発」この3つを重点施策とし、全国の組織を挙げて取り組まれています。

当予防医療センターでは、毎年多くの方に健康診断（人間ドック）を受診していただいております。平成28年度は16,000人を超える方々が受診をされました。健康診断の結果、精密検査が必要な方、治療が必要な方には紹介状をお渡ししています。紹介状をもらったら必ずかかりつけ医等の医療機関を受診して下さい。

高齢化社会となり、2人に1人はがんになり、3人に1人はがんで死亡する時代になってきました。

健康診断は自分の健康状態を把握し、健康の維持、疾病の予防や早期発見に役立てるものです。健診結果の中身を必ず確認し、みなさんの健康生活に役立てて下さい。

予防医療センター 前田 克美

平成28年度統計

対象部位	検査	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	癌発見数	癌発見率	陽性反応適中度
		(人)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(%)
		(A)	(B)	(B/A)	(C)	(C/B)	(D)	(D/A)	(D/C)
胃	上部消化管X線	4,287	316	7.37%	158	50.00%	1	0.02%	0.63%
	上部消化管内視鏡	3,516	265	7.54%	79	29.81%	7	0.20%	8.86%
大腸	S状結腸内視鏡	1,161	41	3.53%	35	85.37%	0	0.00%	0.00%
	便潜血	9,239	424	4.59%	226	53.30%	1	0.01%	0.44%
肺	胸部単純X線	11,956	52	0.43%	35	67.31%	1	0.01%	2.86%
	胸部CT	987	16	1.62%	15	93.75%	0	0.00%	0.00%
乳腺	乳腺超音波								
	+マンモグラフィ	4,032	35	0.87%	25	71.43%	5	0.12%	20.00%
子宮	頸部細胞診								
	+経膈超音波	3,172	365	11.51%	283	77.53%	4	0.13%	1.41%
甲状腺	甲状腺超音波	4,046	19	0.47%	18	94.74%	4	0.10%	22.22%
腹部	腹部超音波	4,051	27	0.67%	21	77.78%	0	0.00%	0.00%
前立腺	PSA	952	61	6.41%	29	47.54%	2	0.21%	6.90%
	(腫瘍マーカー)								
PET-CT	PET-CT	20	1	5.00%	0	0.00%	0	0.00%	0.00%

～熊本県地域医療構想が策定されました～

平成27年度に策定が開始された熊本県地域医療構想は、県全体の地域医療構想検討専門委員会及び各圏域における検討専門部会での協議等を経て、今年3月末に策定されました。人吉球磨地域におきましても計5回の球磨地域医療構想検討専門部会を重ねるとともに、管内の病院及び有床診療所にも地域医療の実情把握のための聞き取り調査にご協力いただき、これまでに頂いたご意見等を地域医療構想に反映させることができました。今後は、構想区域毎に設置される「地域医療構想調整会議」の中で協議を重ねながら、地域医療構想推進のための具体的な取り組みを進めていくこととなります。

去る8月9日に、第1回の球磨地域医療構想調整会議を開催

し、平成28年度病床機能報告結果をはじめ、地域医療介護総合確保基金（医療分）、回復期病床への機能転換施設整備事業等について説明をさせていただくとともに、いろいろなご意見を頂いたところです。

地域医療構想は、地域医療の現状と課題、そして将来の見通しと目指すべき姿を地域の中で共有し、それに向かって共に歩みを進めていく、そのための道標のようにも感じています。これからの歩みを通して、これまで以上に人吉球磨地域の関係機関・団体の皆様の連携が深まることを期待しております。

熊本県人吉保健所 所長 尾方 敬子

平成29年度「地域連携緩和ケア研修会」開催

8月18日、18時30分より当院3階講堂にて地域連携緩和ケア研修会を開催しました。

今回は、人吉球磨地域の訪問看護ステーションスタッフや、調剤薬局の薬剤師、施設看護師・ケアマネージャー等、当院職員も合わせて25名方に受講していただきました。

講義は、当院で7月まで勤務されていた がん性疼痛看護認定看護師の石牟禮 亜香さんをお招きし、「症状マネジメント 疼痛」と題して、痛みメカニズムと痛みの種類に対する薬剤選択のポイントについて詳しく講義して頂きました。また事例紹介では、実際に使用した薬剤・投与量等を具体的に提示しながら患者さんの様子と共に経過を報告されました。

受講者より「現場で活用しやすい内容でした。患者さんの様子観察や訴え確認し、薬剤の選択について主治医と相談をしていきたい」等の感想を頂戴しました。

当院は「地域がん診療連携拠点病院」であり、地域での緩和ケアへの理解を深め、緩和ケアにおける連携を進める目的で今年度も毎月開催予定です。職種は問いません。興味のある方がおられましたら、下記までご連絡ください。詳細についてFAXまたは郵送にて毎月お知らせいたします。



人吉医療センター緩和ケアチーム
医療福祉連携室 南・杉松
TEL：0966-22-2191（代表）

平成29年度地域連携緩和ケア研修会

開催予定日	内容	講義者
9月19日	症状マネジメント呼吸困難～事例を通して～	当院看護師
10月17日	緩和的放射線治療	放射線看護がん放射線看護認定看護師 樋口 和美
11月21日	緩和ケアの心理的支援	臨床心理士 鶴田 真奈美
12月19日	死後の変化について	緩和ケア認定看護師 田安 厚美
1月15日	バンテージ講義	リンパ浮腫指導技能者 久保田 良美
2月20日	バンテージ実技Ⅰ	リンパ浮腫指導技能者 久保田 良美
3月20日	バンテージ実技Ⅱ	リンパ浮腫指導技能者 久保田 良美

人吉医療センター地域協力会総会

9月4日（月）当院講堂にて、平成29年度人吉医療センター地域協力会総会がおこなわれました。当院が地域とともに充実し発展していくよう住民の皆様と連携を密にすることを目的とした会で、近隣町内を中心とした住民で構成され、緊急時の入院患者の避難協力、災害実動訓練への参加、花壇の植栽などの美化活動に取り組んでおります。総会には顧問の松岡隼人市長を含め約40名の会員が出席されました。丸尾会長からは、防災訓練への参加の呼びかけに加え、熊本県女性消防操法大会で人吉市が優勝し全国大会に出場する旨のお話がありました。木村院長は「昨年は地震、今年は大雨と災害が続いている。地域住民と病院が協力し合い安心して生活できる地域にしたい。」松岡市長は「市が財政負担することなくこの地域で医療体制が維持できていることはとても有難い。災害時、病院と市民と市が協力をしていく取り組みは大切。」と述べられました。総会終了後、意見交換会をおこないご出席の方々から日頃の病院に



についてのご意見をいただきました。締めくくりに下川副院長が「災害が起きたときDMATや救護班が助けに来るまで時間がかかる。その間に被害は進行していく。地域住民が地域を守る体制が以前からあることは本当に素晴らしい。」と述べられ閉会しました。今後も地域住民と協同して更なる地域に根付いた病院づくりをおこなって参ります。

総務企画課 総務係長 石井 潤

インターンシップ

今回は、人吉市ボランティアスクール・人吉高校の職場体験の感想の一部を掲載させていただきます。他にもたくさんの感想をいただいております。本当にありがとうございました。

人吉市ボランティアスクール（中学生・高校生）

●印象に残ったのは病棟での清掃と配膳の体験です。清掃は病室を1室行うたびにエプロン・手袋を変え消毒をして衛生にすごく気遣われているのが印象的でした。配膳では名前プレートに「七分菜」等書かれたり、パンだったり患者さんに配慮されていることを実感しました。

●患者さんとのコミュニケーションと取り方がわからなかったのが初め不安でした。でも、看護師さんと患者さんの触れ合いの姿をみてとても勉強になりました。



人吉高校 2年生

●病院内で働く皆さんが良い意味で忙しそうだったので、とても仕事が充実していらっしゃるんだと感じました。また、どの職種においても‘チーム医療’という言葉が基本となっていて、スムーズな正確な医療は多くの職種が関わることで成り立っていると感じました。



●私は進路を決めていく上でなぜ看護師になりたいのか、そして、なれたら何をしたいのかなど考えていました。この2日間でこれらのことがだいたい明確になって本当によかったです。とても濃い充実した2日間でした。

●医師や看護師だけでなく、栄養士や放射線技師、薬剤師、リハビリ技師などの様々な職種の方が力を合わせており、それぞれの専門の知識を生かして患者さんを救っていることを実感しました。

五木村診療所 職場体験

五木村診療所に、地元の中学生在が職場体験に来てくれました。事前の打ち合わせから緊張した様子でしたが、患者さんと会話をしながら無事2日間の日程を楽しんでくれたようです。診療所での職場体験を希望した方は、私が就任以来は初めてでした。若い頃より、夢を持ち、職場体験に来てくれることは嬉しいものです。五木村診療所に勤務し、多くの患者様を診てゆく中で思ったこととして、年齢の割に皆さんすごく元気ということです。90歳代で農業をされる方も沢山いて、膝や腰を痛めながらも、畑があるから、ご飯をつくらなきゃいけないからと、自分の信念を通す方に多く出逢ってきました。逆にこっちがエネルギーをもらうぐらい、『かっこいい』方が沢山います。短い期間でしたが中学生という若いうちに、この村の良さ、強さを少しでも感じてもらえたらと陰ながら思うのでした。



総合診療部 医師 南 由美子

救急フェア 2017

9月10日（日）人吉スポーツパレスで開催された救急フェアに参加させていただきました。救急フェアでは、当院小児科医である谷口先生の『小児の「こんなときどうする？」』という講義や、胸骨圧迫の方法や災害時に使用するテントや、段ボールで作成する簡易ベッド、外では梯子車試乗体験などがありました。私たちは小児・乳児のBLS・AEDを担当しました。

小児のBLSのレクチャーでは、飴を食べながら走りまわり、物を詰まらせて必死に出したなどの体験談を、来場された親子連れの方から聞くことができました。トイレトーパーの芯の直径より小さなものは誤飲するリスクが高いため、子どもの周囲には置かないよう配慮することで事故を防ぐことができることを学びました。また、住民の方が胸骨圧迫やAEDの方法を知り、道ばたで倒れているところを発見して少しでも救命に役立てていただければ良いと感じました。



今回、救急フェアに参加して災害についてや、日頃からもしもの時に備えておくことの大切さを改めて感じました。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

7階病棟 看護師 川辺 舞

連携施設
探訪

当院は、みなさんが住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう、人吉・球磨地域の医療・福祉機関と連携して 地域包括ケアを推進していきたいと考えています。そこで、地域の社会資源を周知していただくため、連携施設をご紹介します。今回は「サービス付き高齢者向け住宅 タンポポ」さん、「小規模介護老人保健施設 もみの木」さんです。

「サービス付高齢者向け住宅 タンポポ」 Vol.10

【施設の特徴】

サービス付き高齢者向け住宅「タンポポ」は、介護・医療と連携し、高齢者の方が安心して生活できるバリアフリー構造の住宅です。また、スタッフが365日24時間常駐し、安否確認や生活相談サービス（生活支援サービス）を提供することなどにより、高齢者の方が安心して暮らすことができる住宅です。

【対象者】 60歳以上の方

※要介護・要支援認定者においては60歳未満可です。

【サービスの内容】

- ・食事提供 ・24時間スタッフ常駐
- ・介護保険居宅介護サービス利用可
- ・生活相談、安否確認
- ・各種オプションサービス（入浴介助、通院付添い、洗濯サービスなど）

洗濯サービスなど

【地域の皆様へ一言】

入居者様個々に合ったサービスと明るく愛情溢れるスタッフが自慢の施設です。

24時間スタッフが常駐していますので、安心して生活頂けます。皆様に愛される施設であるよう、愛と感謝の心で努めて参ります。

【お問い合わせ】 TEL.0966-24-1888

施設長 桑原和子

【訪問者からの一言】

周りが田畑など自然に囲まれた土地に建てられており、とても静かで過ごしやすかったです。玄関の椅子には、自然と入居者が集まり談話をされている姿があり、とてもホッとする時間が流れていました。



「小規模介護老人保健施設 もみの木」 Vol.11

【対象者】

要介護1～5の方が対象

【施設の特徴】

入居者様の生活機能の維持・向上を支援し、ご家庭への復帰を目指すため、医師による医学的管理のもとで看護・介護のケア、リハビリ、栄養管理、食事、入浴などの日常サービスまでを総合的にご提供させていただきます。

病院と併設しており、医療依存度の高い方の受け入れが可能であることが特徴です。

【サービスの内容】

ユニットケア（29床：完全個室）
医療機関（堤病院）併設型介護老人保健施設で、ユニットごとに入所者様をサポートする「ユニットケア」を行います。
ユニット内の居室は全て個室です。個性を尊重し、プライバシーが確保された生活空間が確保できます。個室近くにユニット単位での食事・談話スペースがあり、他の入所者様と相互の交流ができます。

【地域の皆様へ一言】

介護老健保健施設「もみの木」（入所定員29名）は、平成27年1月に堤病院併設施設として開設しました。
全室個室・ユニットケアの特徴を活かし、入所者様の「生活の質の向上」を目指して、安心安全な生活と家庭的な環境を提供するよう

全職員努力しています。

また、自立した生活を目標に理学療法士・言語聴覚士・管理栄養士等の各種専門職とも連携を行い、病院の併設施設として、医療依存度の高い方の入所を受け入れ、看護・介護を提供しています。
地域包括ケア推進のため、その一端を担う施設として、地域社会に貢献していきたいと考えています。

【お問い合わせ先】 Tel：0966-22-0200

生活相談員 平川 雅俊

【訪問者の感想】

堤病院に併設され、3階フロアが堤病院とつながっているため、入所されている方の急変時など、診察や処置などの対応にスムーズに移行することができ、医療依存度の高い方も安心して生活できる環境が整っているのが魅力だと感じました。



「超緊急帝王切開術（レッド帝切）」シミュレーションを終えて

平成29年9月2日（土）、市内の産婦人科から常位胎盤早期剥離の32週の妊婦が搬送され、超緊急帝王切開術になることを想定したシミュレーションを産科、麻酔科、小児科の医師、手術室、ER、ICU、9階の看護師、検査技師、消防署、Qネット等の40名を越える医療従事者で行いました。

超緊急帝王切開術（通称：レッド帝切）とは、子宮破裂、臍帯脱出、常位胎盤早期剥離等の場合に生命の危機的状況にある胎児を救命するための手段です。手術決定から娩出までの目標は10から30分です。常位胎盤早期剥離は発症の予測、予防が難しく、なんらかの原因で子宮壁から胎盤が剥がれ酸素が胎児に運ばれず低酸素となり危険な状態になります。20～30分以内に娩出すると救命率が高くなるため、今回のシミュレーションの目標は病院到着から娩出までの時間を30分以内として行いました。

シミュレーションでは、搬送の連絡が入ると、産科、麻酔科、小児科の医師、看護師、助産師が受け入れの準備を速やかに行いました。患者到着後、常位胎盤早期剥離と診断され、胎児心拍陣痛図の装着、輸液ルートの確保、採血、膀胱留置カテーテル挿入等の手術準備を事前に作成していたアクションカードに準じながら行いました。手術室やICUでは器材の準備、新生

児蘇生の準備等を行い、手術室へ入室後、全身麻酔下に執刀としました。今回は患者の病院到着から娩出までに28分かかりました

シミュレーション終了後、参加者全員でデブリーフィングを行いました。患者受け入れから娩出までの時間は目標をクリアすることができましたが、スタッフ間のコミュニケーション不足や物品、アクションカードの見直しが課題にありました。今後は全てのスタッフが迅速に対応できるマニュアル作成を行い実際の超緊急帝王切開（レッド帝切）に備えたいと思います。最後になりましたが、ご多用の中今回のシミュレーションにご協力下さった皆様に感謝いたします。

9階病棟 萩原 有希





良質で安全な医療を提供し、
信頼される病院を目指して・・・

これからの医療安全

～患者さんも一緒に取組む医療安全～

医療安全とは患者さんに安心・安全な医療を提供できるように、院内全スタッフで安全な医療の確保に取り組むことです。医療は患者さんのためにチームで行っています。そのチームには医療の当事者である患者さんも含まれています。つまり患者さんも積極的に医療に参加して欲しいと思っています。例えば、誤認（名前間違い）を防ぐためにフルネームで名乗ってもらう、説明はできるだけ2人以上で聞いたり、不安や疑問に思うことはスタッフに確認したり。詳しくは下記の「受診時の協力とお願い」を参照されることができることから、ご協力をお願いします。

患者さんとスタッフとのコミュニケーションや協力によって、医療内容に対する患者さんの理解が進むとともに、信頼関係も構築されます。信頼は良質で安全な医療に必要不可欠なものです。患者さんのご理解とご協力をお願いします。

患者さんへ 受診時の協力とお願い

1. 患者さんもチーム医療のメンバーです。積極的に治療に参加しましょう。
2. お名前の確認はフルネームをお願いします。
3. 処方箋など書類を受け取る時は、必ず名前を確認しましょう。
4. 不安や疑問に思うことがあったら、必ずスタッフに確認しましょう。
5. 治療について、納得できるまで説明を聞きましょう。
6. 検査結果は、確認するようにしましょう。
7. 医療者の説明は、できるだけ2人以上で聞くようにしましょう。
8. 診療方針は患者さんと医療者が一緒に考えて決めます。
9. 必要があれば、セカンドオピニオン（他院の医師の意見を聞くこと）も希望できます。
10. 医療者が医療行為に集中できるようにご協力下さい。
11. 院内感染防止のため、手洗いやマスク着用などにご協力をお願いします。
12. 職員への暴言・暴力などは、ご遠慮下さい。
13. 病院へは、入院生活に必要な物以外は持ち込まないようにしましょう。
14. 夜間の外出や電話の取次ぎはできません。
15. 何かご意見があれば「ご意見箱」（1F受付・2F総合案内・各病棟カウンター）にあります、または相談支援センターをご利用ください。

医療安全管理室 永井 香代子

電子カルテのバージョンアップ終了

8月26日から27日にかけて、電子カルテ（CSI・MIRAI s）のシステムバージョンアップ作業をおこないました。その間は、電子カルテが使用できず紙カルテの運用となりましたので、救急患者の診療等について懸念される部分もございましたが、地域の先生方、また患者さんのご理解とご協力をいただき大きな混乱もなく無事システム更新作業をおこなうことができました。改めて御礼申し上げます。

バージョンアップされた電子カルテでは患者さん毎に登録されているオーダー情報を予定表のイメージで時系列表示が可能であったり、医師毎の処方・注射オーダーの使用頻度を学習し、入力効率化や使用薬剤の選択ミスの可能性を少なくするなどの機能があります。

また、離席する際にはワンクリックでパソコン画面のロックをかけることができ、一定時間経過後は自動的にロックがかかるように設定され、個人情報の保護にも配慮されています。

まだ、新しいシステムに慣れずとまどうこともあります。ミス発生防止機能や効率よく作業するために工夫された電子カルテに早く慣れ、安全で患者さんに優しい医療が提供できるように取り組んで参ります。

労働基準監督署主催

ソフトボール大会 3位入賞!!

9月9日に労働基準監督署主催のソフトボール大会が、相良村運動公園で行われました。

結果は1・2回戦勝利し3回戦で惜しくも敗れ3位でした。炎天下の中、皆さん精一杯プレーし、好プレーあり、エラーあり、応援のたくさんの黄色い声援ありと和気あいあいとした雰囲気です。試合をすることが出来ました。

この大会の趣旨が職場の親善とありますが、4月に入職した私にとって普段あまり交流のない同じ職場の職種の違い皆さんと一緒にプレーし、一つのボールに対し皆で一喜一憂楽しい時間を過ごせたことが大変嬉しかったです。私にとって良い職場内の親善の場となりました。

今大会エラーもしましたが来年はエラーせず、必ず県大会の切符を取りにいきたいと思います！



早朝より準備、応援して頂いた皆様ありがとうございます。また、選手の皆様お疲れさまでした。

看護師 宮原 直也

新任紹介



つづき なおこ
續 尚子（協力型・臨床研修医）

最終卒業校：大分大学

趣味：音楽

好きな言葉：初志貫徹

自分の性格：真面目、おっちょこちょい

自分のコマーシャル：一ヶ月という短い間ですが、よろしくお願ひします。



さかもと ゆうこ
阪本 裕子（予防医療センター・臨床検査技師）

最終卒業校：銀杏学園短期大学

趣味：犬と寝ること、積ん読

長所：まめにメモを取る

短所：メモを取った字があまりに雑で読めない

自分のコマーシャル：超音波検査士のスキルを生かして、人吉球磨のみなさんの役に立ちたいと思います

9月の勉強会報告

9月14日(木)第95回消化器カンファレンス

「胃サルコイドーシスの1例」

当院 臨床研修医 木下 聰先生

「重複胆嚢について」

当院 臨床研修医 河野 達哉先生

外科 尾崎 宣之先生

